

頁。(昭和八年十二月)。43) 若林春治：北越醫學會雜誌，42年，6號，627頁。(昭和二年) 44) 村鐘嶺，金東益：朝鮮醫學會雜誌，21卷，2號，190頁。(昭和六年) 45) 田村茂夫：九大同門會報，53號，48。(昭和十一年) 46) 坂本恒雄：實驗醫報，242號，218頁。(昭和九年) 47) 中島貞次郎：The J. of Biochemist., 第19卷，1號，33頁。48) 李敬洙，金榮澤：兒科雜誌，第44卷，5號，799頁。49) 鈴木みづ：兒科雜誌，第44卷，2號，316頁。50) 賀來勳：臨牀小兒科雜誌，第12年，2號。51) 江口勇，黑澤崇治：北海道醫學雜誌，15年，10號。52) Kostyále und Penkert, Z. Kinderhkd., 52. (S. 647-660), 1932. 53) Markowa: Z. Khkd., 50. (S. 496-502), 1930. 54) Schottniller: Kl. W., I. 1931. (S. 17-20). 55) Gromski: Zentralblatt f. ges. Inn. Med. & Grenzgeb., Bd. 9, 1914 J. b. 56) Nürnbergger: Med. Kl., 1930. I (167-170). 57) Samighausen: Med. Kl., Jg. 16, Nr. 47, 1920. 58) Schelenz: Med. Kl., Jg. 9, Nr. 16, S. 622-623 59) Erwin & Pulay: H. H. Meyer & R. Gattlieb: Experimentelle Pharmakologie, S. 21.

猩紅熱、溶血性連鎖狀球菌性アンギナ及び溶血性連鎖狀球菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第三編 溶血性連鎖狀球菌(猩紅熱株、アンギナ株、丹毒株、産褥

熱株)精製毒素接種に關する臨牀實驗的研究(二)

慶應義塾大學醫學部内科教室(主任 西野教授)

東京市立豊島病院(院長 内田博士)

醫學士 高橋昇

第二節 アンギナ溶血性連鎖狀球菌精製毒素接種例

第一例 某，♀，七年七ヶ月(赤痢恢復期)、ティック反應(卅)。兩側上膊皮下に注射した。

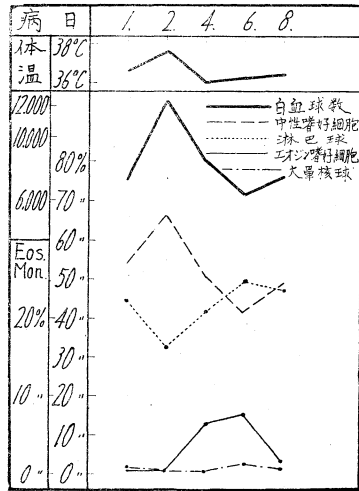
毒素 アンギナ溶連菌(石川株)精製毒素を二十四時間の間隔を以て二回 第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

毒素接種前體溫三六・六度、脈搏八八、呼吸數一八。毒素接種五時間後惡心を訴ふ。九時間後體溫上昇し、發熱持續四十二時間。發熱と同時に全身皮膚に軽度の發赤を見る。皮膚陰性紋畫症陽性。發赤持續八時間。軽度の口圍蒼白を認む。眼瞼結膜、咽頭粘膜は軽度に充血す。落屑を生ぜず。舌變化を認めず。淋巴腺、脾臓、肝臓は腫大せず。ディック反應は二週後のリテスト(一)。咽頭溶連菌を毒素接種の前後に於て證明せず。尿中ウロビリソリン體は第二日より第四日迄陽性。

血液像變化 赤血球數は接種後軽度の減少を見、血色素量は赤血球數の減少に準じ、血色素係數は不變。白血球數は第二日急激に増加して二、四

第十四圖 七年七月



〇〇に達せるも、第四日正常に復す。中性嗜好細胞は第二日白血球數の増加と共に著明の増加を示すが、第三日急激に減少して第四日正常に復す。テール氏封入小體は第二日二・〇%に出現せるのみ。鹽基性嗜好細胞は初期消失し、接種後第八日〇・六%に認むるのみ。エオジン嗜好細胞は發疹

高橋II猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

消褪した第四日第六日六・二―七・六%に増加せるが、第八日正常に復す。淋巴球は毒素接種直後より第二日に互つて急激に減少し、第三日以後次第に恢復して第六日乃至第八日恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は少数に出現す。プラスマ細胞及チュルク氏刺戟型は接種後殆ど毎回に出現す。

第二例 某、子、五年九月(赤痢恢復期)。

ディック反應(一)。毒素 アンギナ溶連菌(石川株)精製毒素を二十四時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

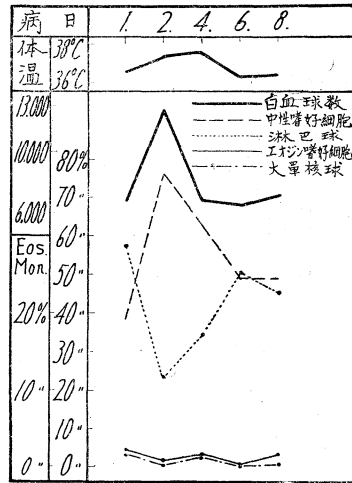
第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

接種前體溫三六・五度、脈搏八〇、呼吸數二〇。毒素接種後體溫上昇、脈搏及び呼吸數の増加、頭痛、咽頭痛、惡心、嘔吐、腹痛、下痢、皮膚搔痒感等を訴へず。皮膚發赤、發疹、落屑、眼瞼結膜及び咽頭粘膜の充血等を認めず。淋巴腺、脾臓、肝臓の腫大を見ず。ディック反應は毒素接種後も陰性。咽頭粘液培養の結果、綠色連鎖球菌を認むるのみ。尿中ウロビリソリン體は第二日弱陽性を呈し、第四日消失す。

血液像變化

赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二日急激に増加して二、〇〇〇に達せるも、第三日急に液少して第四日接種前と略々同値に復す。中性嗜好細胞は第二日白血球數の増加と共に著明に増加して第五日に及ぶ。核形推移は接種翌日以後、桿狀核細胞増加し、第六日少數のメタミエロチーテンを認む。テール氏封入小體は出現せず。鹽基性嗜好細胞は

第十五圖
 子 五年九ヶ月



高橋II猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

10110

二時間。毒素接種十三時間午後、頭部、胸部、背部、上膊に軽度の發赤を見たが數時間にして消失す。顔面潮紅、口圍蒼白、眼瞼結膜及び咽頭粘膜の充血、皮膚落屑を見ず。舌苔肥厚するも、覆盆子舌を呈せず。淋巴腺、脾臓、肝臓の腫脹を認めず。ティック反應第一〇日のリテスト(卅)。咽頭粘液培養の結果、毒素接種前後に於て溶連菌の數個の集落を見、増減を認めず。尿中ウロビリソ體は毒素接種翌日出現し、第三日最も著明。

血液像變化
 赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二―第三日増加し、特に第二日は最高一九、三〇〇に達す。中性嗜好細胞は毒素接種後直ちに増加して、第二日最高七〇・八%に達し、以後漸減して一週後正常に復す。

初期減少せるも、第八日増加して一・六%に達す。エオジン嗜好細胞は正常値の範圍内に動搖するのみ。淋巴球は接種直後急激に減少せるも、第三日以後恢復して第六日正常に復す。大單核細胞及び移行型は初期減少を示す。プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は接種前、第四日及び第六日低率に出現す。

第三例 某、子、三年(赤痢恢復期)。

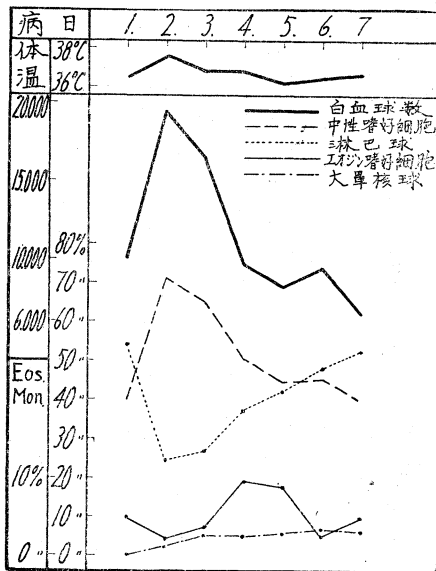
ティック反應(卅)。

毒素 アンギナ溶連菌(石川株)精製毒素を十一時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

- 第一回量 二、〇〇〇皮膚單位
- 第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

接種前體溫三六・五度、脈搏七六、呼吸數三二。毒素接種七時間午後體溫上昇し、十時間後最高三七・七度、脈搏一〇〇、呼吸數二六。發熱持續十

第十六圖
 子 三年



核形推移は第二―第三日桿狀核細胞の増加を見るのみ。テール氏封入小體は第二日より一週間僅に出現す。鹽基性嗜好細胞は第五―第六日一%内外

病	赤		球		白										球					寄															
	總數	血色素係數	血色素量	其他	總數	淋			絕對數	嗜核	嗜葉核	嗜好	嗜好		嗜好	嗜好	嗜好			嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好	嗜好			
						總數	絕對數	相對數					絕對數	相對數			絕對數	相對數	絕對數														相對數	絕對數	相對數
前日	四九一萬	〇・五六	五五%		七三〇〇	三・一四一	三・二四〇	四・四〇四%	三・九四二	〇・四%	六・二%	四七・四%	〇	二九	〇・四%		〇%			〇・八%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六
二日	四〇二萬	〇・六二	五〇%		三三〇〇	四・〇一七	三・三四%	八・二三三	一・六%	七・四%	五七・四%	(二・〇)	四九	〇・四%		〇%			〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	
四日	三九七萬	〇・六三	五〇%		八五〇〇	三・三三三	四・一二二%	四・三八六	四・四%	七・二%	三三・八%	〇	五二七	六・二%		〇%			〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	
六日	三九三萬	〇・六三	五〇%		六三〇〇	三・二二四	四九・六%	二・六〇八	〇・四%	七・二%	三三・八%	〇	四七八	七・六%		〇%			〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	
八日	三九六萬	〇・六一	四九%		七五〇〇	三・二二四	四七・二%	三・六三三		一一・八%	三六・六%	〇	二二〇	一・六%		〇%			〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・四%	〇・八%	〇・四%	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	三六・六	

高橋〱猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

病日	赤血球			白血球			血球			嗜好			嗜好			嗜好			嗜好			寄生蟲	體溫	發疹	扁桃腺	皮膚	尿管	其他
	總數	血色素量	血色素係數	總數	中性核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核	嗜好核								
前日	四六三萬	四八%	〇・五一	一〇〇〇	六二%	三六%	〇	四八%	四・八%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・〇%	三六・五	—	—	—	—		
一日	四三萬	四五%	〇・五	一・九三〇	六二%	五二%	〇	三八六	二・〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・六%	三六・八	—	—	—	—		
二日	四五二萬	四五%	〇・五	一・四三〇	六二%	五二%	〇	五九〇	三・六%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・六%	三六・八	—	—	—	—		
三日	四二七萬	四五%	〇・五	一・四〇〇	六二%	五二%	〇	九三一	三・六%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・四%	三六・八	—	—	—	—		
四日	四七二萬	四七%	〇・五	九七〇	六二%	四二%	〇	九三一	九・六%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・四%	三六・二	—	—	—	—		
五日	四二六萬	四〇%	〇・四八	八二〇〇	六二%	四〇%	〇	七六一	八・八%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・八%	三六・二	—	—	—	—		
六日	四六五萬	四五%	〇・四八	九四〇〇	六二%	三七六%	〇	四二三	八・八%	一・二%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・二%	三六・四	—	—	—	—		
七日	四三七萬	四四%	〇・四八	六四五〇	六二%	三七六%	〇	三〇九	四・八%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三・〇%	三六・六	—	—	—	—		

高橋=猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

に出現せるのみ。エオシン嗜好細胞は接種直後減少せるも、第四―第五日には著しく増加し、特に第四日は最高九・六%を示す。リンパ球は毒素接種直後急激に減少せるも第四日より次第に恢復す。大單核細胞及び移行型に變化を見ず。プラズマ細胞及びチュルク氏刺戟型は接種後増減を見ず。

第四例 某、子、八年六月(赤痢恢復期)。

デイック反應(一)。

毒素 アンギナ溶連菌(石川株)精製毒素を十一時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

接種前體溫三六・二度、脈搏八〇、呼吸數二〇。毒素接種九時間後體溫上昇し、發熱持續四十二時間。第二日體溫三八・八度、脈搏一二四、呼吸數二八。顔面潮紅、口圍蒼白、皮膚發赤、發疹、眼瞼結膜及び咽頭粘膜炎の充血、覆盆子舌等を認めず。リンパ腺、脾臓及び肝臓の腫脹を見ず。デイック反應は一週後のリテスト(一)。咽頭粘液培養の結果、溶連菌集落は毒素接種前二四個、接種後二〇個を認む。尿中ウロビリネ體は毒素接種翌日出現し、第三日消失す。

血液像變化

赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二日最高一八・五〇〇に達し、增多症第五日に及ぶ。中性嗜好細胞は白血球數の増加と共に

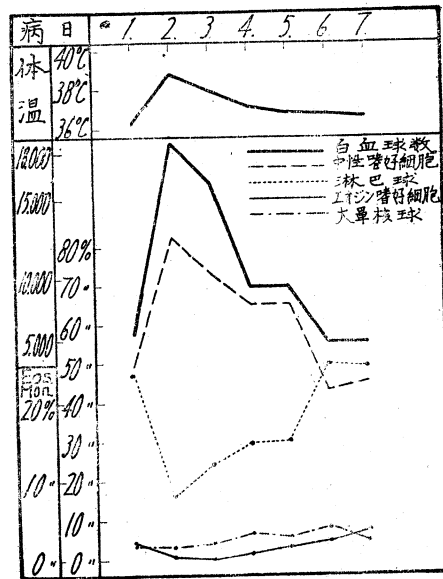
第三節 丹毒株溶血性連鎖球菌精製毒素接種例

第一例 某、↑、四年(赤痢恢復期)。

高橋II猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

増加し、第二日最高八二・〇%に達せるも、第四日以後漸次減少して、第六日正常に復す。核形推移は初期桿狀核細胞増加し、第三日〇・四%に

第十七圖 子 八年六月



タミエロチーテンの出現を見る。テール氏封入小體は第二日出現して第六日に及び、第三日最も多く出現して四・〇%を示す。鹽基性嗜好細胞は第三日より第六日に互つて〇・六%以下に出現す。エオシン嗜好細胞の増減を見ず。リンパ球は毒素接種翌日一六・二%に減少せるも、第六日以後著明の恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は毎回正常の範圍にあつて増減を見ず。プラズマ細胞及びチュルク氏刺戟型は、第四―第七日に一%内外に出現す。

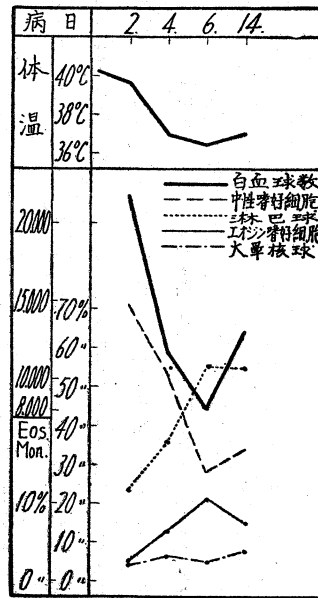
デイック反應(卅)。

高橋II猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て
 毒素 丹毒溶連菌(畑株)精製毒素を一〇時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位
 第二回量 三、〇〇〇皮膚單位
 接種前體溫三六・〇度、脈搏七六、呼吸數二〇。接種四時間半後體溫上昇し、第二日最高體溫三九・六度、脈搏一六四、呼吸數四二。發熱持續六六時間。毒素接種七時間半後、顔面潮紅、口圍蒼白を來たし、全身皮膚に鮮紅色の發赤を見たが、皮膚搔痒感を訴へず。第二日頸部、胸部、背部、腹部、上膊、上腿内側の發疹著明となり、皮膚陰性紋畫症陽性。シュルツ、シャルトン氏疹消褪現象陽性を呈す。ティック反應を施行した皮膚の一部は發疹缺如す。發疹は六〇時間持續し、第八日兩側上膊及び臀部に靴襪様落屑を認む。眼瞼結膜及び咽頭粘膜炎は毒素接種五時間後充血を呈す。舌は白苔肥厚するも乳頭肥大せず。覆盆子舌を呈せず。淋巴腺、脾臓、肝臓の腫脹を證明せず。ティック反應第一〇日のリテス(十)にて反應減弱せるを見る。咽頭溶連菌は毒素接種前後に於て證明せず。尿中ウロビリネ體は第二日増量し、第四日最も著明に出現す。

血液像變化
 赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二日特に増加して最高二一、七五〇に達し、之は本實驗二四例中白血球増加症の首位を占む。本細胞の増加は第四日尙一一、七〇〇を數ふ。中性嗜好細胞は毒素接種直後増加し、第二日は最高七〇・八%を示し第三日以後漸次減少する。核形推移は第二日桿狀核細胞の輕度の増加を見るのみ。デーレ氏封入小體第二

第十八圖
 四年



日乃至第六日出現し、第四日最高七・〇%に達す。鹽基性嗜好細胞は第二日消失するも、第三日以後〇・二一〇・八%に出現する。エオシン嗜好細胞は第四日より増加し第六日最高一〇・六%に達す。淋巴球は初期減少して第二日二三・四%、第六日以後恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は毒素接種後増減を見ず。プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は毒素接種前後共毎回證明せらる。

第二例 某、♂、三年(赤痢恢復期)。
 ティック反應(卅)。

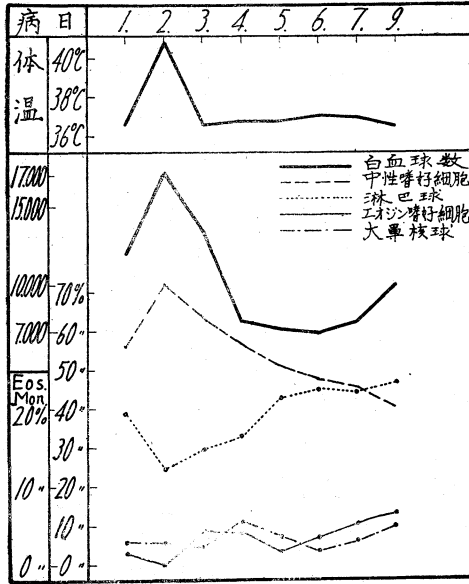
毒素 丹毒溶連菌(畑株)精製毒素を一〇時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。
 第一回量 二、〇〇〇皮膚單位
 第二回量 三、〇〇〇皮膚單位
 接種前體溫三六・六度、脈搏八四、呼吸數二〇。毒素接種四時間半後體溫上昇し、第二日體溫最高四〇・八度、脈搏一四〇、呼吸數三二。發熱持續

血液像變化
赤血球數及び血色素量は毒素接種後軽度の減少を示すも、血色素係數は不變。白血球數は第二日最高一七、〇〇〇に増加せるも、第四日以後は反つ

高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

一〇二七

第十九圖
三年



三三時間。毒素接種五時間後顔面潮紅し、頸部、上膊、胸部に發赤、發疹を生じ、更に毒素接種一時間後顔面潮紅、口圍蒼白明瞭となる。全身皮膚は針尖大の發疹密生して鮮紅色を呈す。皮膚陰性紋畫症陽性。シユルツ、シヤルトン氏疹消褪現象陽性。發赤、發疹の持續五六時間。第五日頸部、背部及び臀部に枇糠様落屑を生ず。眼瞼粘膜、咽頭粘膜に軽度の充血を見、接種四〇時間後覆盆子舌を呈す。淋巴腺、脾臟、肝臟の腫脹を見ず。アイツク反應は第一〇日のリテスト(一)。咽頭溶連菌陰性。尿中ウロビリ

ン體は第二日出現し第四日最も著明。
て減少を示す。
中性嗜好細胞は白血球數の増加と共に、第二日増加せるも第四日接種前の値に復す。核形推移は第二三日桿狀核細胞、並にメタミエロチーテンの増加を見る。更に兩日中性嗜好ミエロチーテン〇・四乃至〇・二%に出現す。デーレ氏封入小體は第二日より第四日迄二〇・一八・〇%に出現し、第三日最高八〇・〇%を占む。鹽基性嗜好細胞は其の出現極めて僅少にして第二日第六日〇・二一〇・四%に出現せるのみ。エオジン嗜好細胞は第二日消失するも以後次第に増加して第七日乃至第九日五二・一六・六%に達し、恢復期増加を示す。淋巴球は毒素接種翌日軽度の減少を見るのみ。大單核細胞及び移行型は毒素接種後特別の増減を見ず。プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は三%以下に出現す。

第三例 某、♀、一〇年(赤痢恢復期)。
アイツク反應(一)。
毒素 丹毒溶連菌(畑株)精製毒素を一〇時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位
第二回量 三、〇〇〇皮膚單位
接種前體溫三六・四度、脈搏六四、呼吸數一九。毒素接種一九時間後體溫上昇し、第二日體溫最高三七・八度、脈搏一一〇、呼吸數二四。發熱持續一三時間。自覺的に頭痛、咽頭痛、惡心、嘔吐、腹痛、下痢を訴へず。皮膚發赤、發疹、粘膜充血及び覆盆子舌を見ず。淋巴腺、脾臟、肝臟は腫脹せず。アイツク反應は第一〇日のリテスト(一)。咽頭溶連菌は毒素接種の前後に證明せず。尿中ウロビリソ體は第二及び第三日弱反應を呈するのみ。

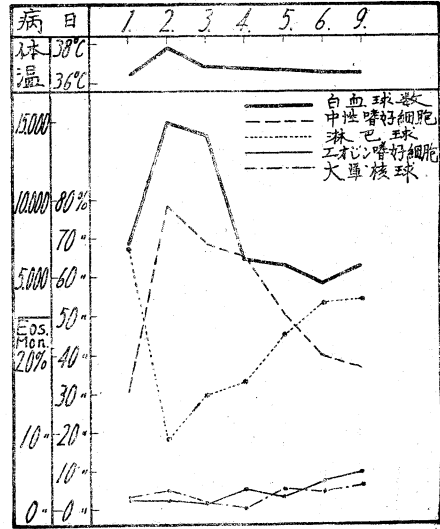
高橋「猩紅熱」アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液後の關係に就て

(20) 第三例 十年

10130

病	赤血球				白血球				嗜中性球				嗜酸性球				寄生蟲		淋病		所見	
	總數	血色素係數	血色素量	總數	桿狀核	分葉核	好中核	嗜中性核	嗜酸性核	嗜中性核	嗜酸性核	嗜中性核	嗜酸性核	嗜中性核	嗜酸性核	大單核球及び移行型	トラスマ細胞	寄生蟲	淋病	淋病	所見	所見
前日	四三八萬	〇・七五	六六%	七・〇〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	一・二%	一・二%	一・二%	一・二%	一・六%	〇・二%	三六・四	---	---	---	---	
一日	五〇四萬	〇・七	七〇%	一五・〇〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	一・〇%	一・〇%	一・〇%	一・〇%	〇・八%	〇・四%	三七・八	---	---	---	---	
二日	五一萬	〇・六八	六九%	一四・二〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	〇・六%	〇・六%	〇・六%	〇・八%	〇・六%	〇・六%	三六・八	---	---	---	---	
三日	四四一萬	〇・七五	六六%	一四・二〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	二・四%	二・四%	二・四%	二・四%	〇	〇	三六・七	---	---	---	---	
四日	四四一萬	〇・七五	六六%	一四・二〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	二・四%	二・四%	二・四%	二・四%	〇	〇	三六・七	---	---	---	---	
五日	四七三萬	〇・七一	六七%	一五・七〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	一・四%	一・四%	一・四%	一・四%	〇	〇	三六・六	---	---	---	---	
六日	四七三萬	〇・六八	六五%	一四・五〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	一・四%	一・四%	一・四%	一・四%	二・二%	〇・八%	三六・五	---	---	---	---	
九日	四七三萬	〇・七	六六%	一五・〇〇	六・四%	一四・〇%	〇	〇・二%	〇・二%	〇・二%	一・四%	一・四%	一・四%	一・四%	三・〇%	一・八%	三六・五	---	---	---	---	

第二十圖
十年



第一例 某、6、六年二ヶ月(赤痢恢復期)。

アイツク反應(卅)。

毒素 産褥熱溶連菌(相澤株)精製毒素を一八時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

毒素接種前體溫三六・四度、脈搏九〇、呼吸數一八。毒素接種八時間後體溫上昇し、一三時間後惡心、嘔吐、腹痛を訴へ、一回不消化便を見たるも頭痛、咽頭痛、關節痛等の自覺症狀を缺く。發熱持續三六時間、第二日最高三九・七度。脈搏一三〇、呼吸數は僅の増加を見るのみ。毒素接種一五時間後顔面潮紅、口圍蒼白を見、全身の皮膚瘙癢感と共に發赤し、三〇時

高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第四節 産褥熱株溶血性連鎖球菌精製毒素接種例

血液像變化
赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二三日一五、〇〇〇—一四、〇〇〇に増加す。中性嗜好細胞は第二日著明に増加して第四日に及び第二日最高七八・二%に達せるも以後次第に減少して、第九日接種前の値に復す。核形推移は第二日より第六日に互り少數の桿狀核細胞の増加を見るのみ。テール氏封入小體は第五日二%に出現せるのみ。鹽基性嗜好細胞は接種前及び第六日〇・二%に證明せるのみ。エオシン嗜好細胞の増減を見ず。淋巴球は初期著明に減少して、第二日一八・〇%を示すも第三日以後恢復す。大單核細胞及び移行型の變化を見ず。プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は接種前より殆ど毎回二・〇%以下に證明す。

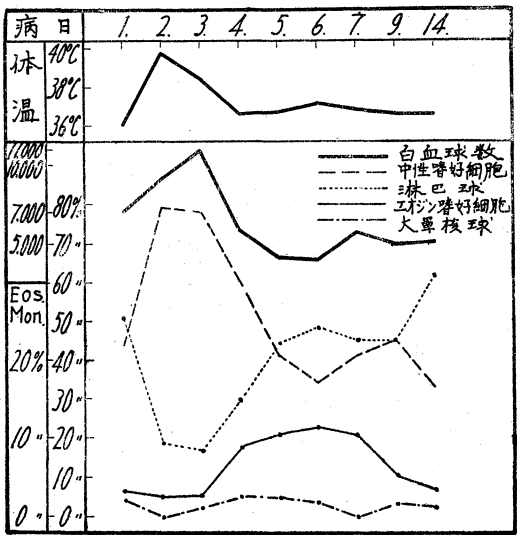
間後全身の皮膚發赤著明となり特に胸部、腹部、上肢の發赤は針頭大の發疹の無數の集積よりなる。毒素接種前豫めアイツク反應を行つた部分は初め發赤、發疹を缺如し、第三日軽度の發赤を見る。皮膚陰性紋畫症陽性。第三日シユルツ、シヤルトン氏疹消褪現象陽性。第四日發疹消褪開始し、第七日肩胛部、腋窩部及び兩側前膊に枇糠樣落屑を認む。眼瞼結膜、咽頭粘膜炎は接種一五時間後充血。舌は毒素接種後灰白色の苔肥厚し、其の後次第に乳頭の肥大を來すと共に白苔消失し、第五日遂に深紅色の覆盆子舌を呈す。淋巴腺は第三日以後頸部及び鼠蹊部のもの數個小豆大乃至豌豆大に腫脹を見るも壓痛を訴へず。脾臟及び肝臟は腫大せず。アイツク反應は第一二日のリテスト(±)。咽頭溶連菌は接種前後六回培養を行ふも毎回陰性。尿中ウロビリソ體は第二日陽性となり、第三日最も著明に出現す。

高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

一〇三二

血液像變化
 赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は接種直後増加し、第三日最高一〇、八〇〇に達す。中性嗜好細胞は白血球數の増加と同時に第四日迄増加し、第五日正常に復す。核形推移は第二―第三日桿狀核細胞増加し、第三日一・二%にメタミエロチーテンを認む。テール氏封入小體は接種後第二、第三、第四日及び第五日に出現す。鹽基性嗜好細胞は初期消失し、第六日以後低率に出現す。エオジン嗜好細胞は第四日發疹消褪時より増加して第九日に及ぶ。落屑開始期に當る第六日最も著明に増加して一・二%を示し。毒素接種例中の最高率を示す。淋巴球は中性嗜好細胞

第二十一圖
 ↑ 六年二ヶ月



の増加に際して急激に減少し、特に第三日最も減少して最低一六・六%を

示すも、以後次第に増加して二週後には恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型に變化なし。プラズマ細胞及びチュルク氏刺戟型は第三日以後出現す。

第二例 某、♀、七年十ヶ月(赤痢恢復期)。
 ティック反應(卅)。

毒素 產褥熱溶連菌(相澤株)精製毒素を一入時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

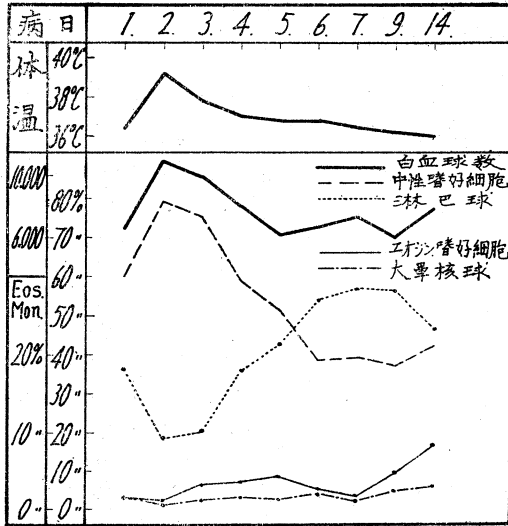
第一回量 二、〇〇〇皮膚單位
 第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

接種前體溫三六・四度、脈搏一〇〇、呼吸數二二。毒素接種八時間後體溫上昇し、發熱持續四八時間。第二日最高三九・二度、脈搏一三〇、呼吸數三〇。頭痛、關節痛、咽頭痛、惡心、嘔吐を訴へず。接種七時間後腹痛を伴ひ、下痢便二回。接種一〇時間後顔面潮紅、口圍蒼白を見、殆ど全身の皮膚に軽度の發赤を見る。癢痒感を訴ふ。二四時間後全身皮膚の發赤、發疹著明となる。皮膚陰性紋畫症陽性。シュルツ、シヤルトン氏疹消褪現象陽性を示す。第三日即ち四〇時間後ティック反應を行つた前膊の一部は發疹缺如す。發疹は三九時間持續して消褪し、第六日上膊及び肩胛部より紙糠樣落屑始まる。眼瞼結膜及び咽頭粘膜は一五時間後充血を見る。舌は四〇時間後白苔を被り、乳頭肥大と共に白苔消失して第四日深紅色の覆盆子舌を呈する。淋巴腺、脾臟、肝臟の腫脹を見ず。ティック反應は第一二日のリテスト(卅)。咽頭粘液を毒素接種前後七回培養を行ひ、四個乃至七個の溶連菌及び無數の綠色連鎖狀球菌集落を證明し、毒素接種による増菌を認めず。尿中ウロピリン體は第二日に證明し、第三―第四日最も著明に出

第一週は正常値の範圍に動搖し、第二週に入り八%に増加す。淋巴球は發

高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第二十二圖
辛 七年十月



現す。
血液像變化
赤血球、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は接種直後より増加し、發熱極期の第二日最高一〇、九〇〇に達せるも第五日正常に復す。中性嗜好細胞は第二―第四日白血球數の増加と共に増加し、特に第二日は最も増加して七九・〇%に達し、第三日に於ても接種前の値より増加を示す。核形推移は第二―第三日僅に桿狀核細胞の増加を見るのみ。テール氏封入小體は第二及び第三日何れも二・〇%に出現す。鹽基性嗜好細胞は第四日〇・二%、第六日最高〇・八%に出現する。エオジン嗜好細胞は毒素接種後

熱と同時に減少し、第二日最低値を示すも第四日正常に復し、第六日以後恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は正常の範圍に止り、プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は二・四%以下に每常出現す。

第三例 某、♂、四年十月(赤痢恢復期)。

ディック反應(卅)。

毒素 産褥熱溶連菌(相澤株)精製毒素を一九時間の間隔を以て二回兩側上膊皮下に注射した。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

接種前體溫三六・八度、脈搏八四、呼吸數二四。毒素接種四時間半後惡心、不消化物の嘔吐を見るも腹痛、下痢を訴へず。接種五時間後體溫上昇し、發熱持續五一時間。第二日體溫最高三九・七度、脈搏一二〇、呼吸數三〇。皮膚は接種六時間半後胸部、背部、腹部に軽度の發赤を見同時に顔面潮紅、口圍蒼白を見る。皮膚發疹は其の後次第に著明となりて全身に及ぶ。皮膚陰性紋畫症陽性。シュルツ、シャルトン氏疹消褪現象陽性。皮膚は接種四〇時間後乾燥し、癢痒感を訴へ、五〇時間後發疹完全に消褪す。第七日腋窩部、兩側上腿に皰癬様落屑を認む。眼瞼結膜、咽頭粘膜炎は接種一九時間後充血。舌は接種後白苔肥厚せるも乳頭の肥大と共に消失し、四〇時間後深紅色覆盆子舌を呈する。淋巴腺、脾臟及び肝臟の腫脹を證明せず。ディック反應は第一二日のリテスト(土)。咽頭粘液培養に於て溶連菌集落は毒素接種前一二個、接種後一四個、其の他綠色連鎖狀球菌を證明す。尿中コロビリン體は第二日出現し、第三日最も著明。

血液像變化

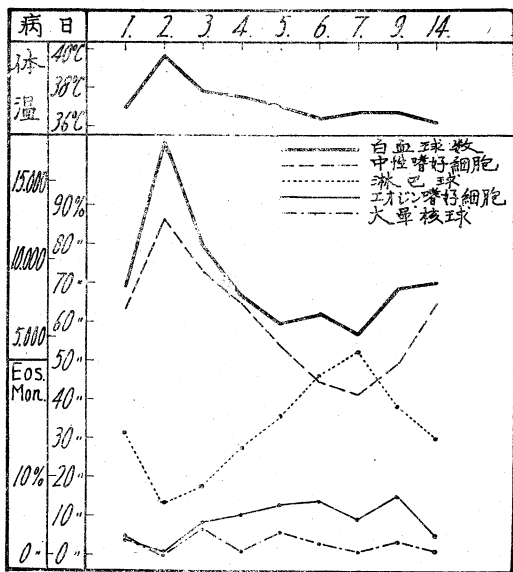
高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

一〇三四

赤血球數、血色素量、血色素係數は不變。白血球數は第二日一七、五〇〇に増加して最多數を示すも、第四日正常に復し、第五―第七日一時的減少を見る。中性嗜好細胞は白血球數の増減と共に第二日急激に増加して八六・二%に達せるも、第三日以後減少して正常値に復し、第七日四一・八%を示す。核形推移は第二日桿狀核細胞二八・六%に増加し、メタミエロチーテン一・二%に出現す。第五日に至ればメタミエロチーテン消失し、桿狀核細胞も接種前の値に復す。デーレ氏封入小體は第三日最高一〇%を占め第九日迄出現す。鹽基性嗜好細胞は第九日乃至第一四日〇・二―〇・四%の間

第二十三圖

♂ 四年十月



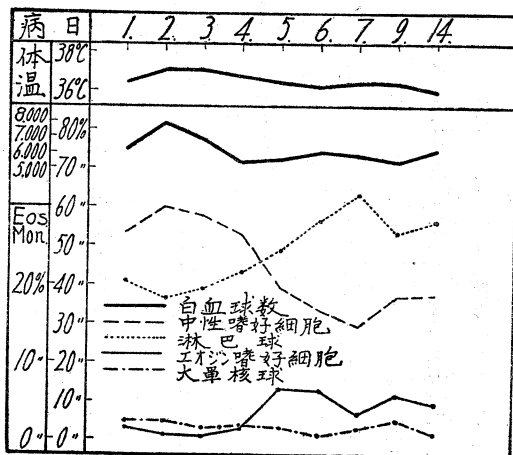
に出現す。エオシン嗜好細胞は毒素接種直後一時軽度の減少を來し、第三日迄は正常値の範圍に止つたが、第四日以後増加して第九日最高七・六%

に達す。淋巴球は急激に減少して第二日一三・四%を示し、以後中性嗜好細胞の減少と共に第三日以後増加して、第七日恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は全經過を通じ正常の範圍内にあるも、毒素接種翌日は消失す。ブラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は毒素接種前後共少數に出現す。第四例 某、五年九月(赤痢恢復期)。

第一回量 二、〇〇〇皮膚單位

第二十四圖

♀ 五年九月



第二回量 三、〇〇〇皮膚單位

病	赤血球		白血球		嗜中性球		嗜酸性球		嗜碱性球		嗜中性球		嗜酸性球		嗜碱性球		寄生蟲		所見		
	總數	血色素量	總數	核狀	總數	核狀	總數	核狀	總數	核狀	總數	核狀	總數	核狀	總數	核狀	體察	覆蓋	アソギ	落屑	
前日	五八萬	六〇%	七〇〇〇	五〇%	三〇六	三〇%	三〇〇	三〇%	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
一日	四〇萬	五〇%	九一〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四日	四〇萬	五〇%	一〇、〇〇〇	六〇%	八〇三	四〇%	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

高橋ニ猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒液接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋ニ猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒接種例に於ける血液像の關係に就て

(22) 第二例 一 七年十月月

1036

病	赤血球		白血球		嗜中性核		好嗜中性細胞		嗜酸性核			嗜酸性核			嗜中性核			大單核球及び移行型			寄生蟲		體溫	發疹	皮膚	アングナ	淋病	尿	其他
	總數	血液色素係數	血液色素量	總數	絕對數	百分核	形狀核	體有する細胞	絕對數	絕對數	百分核	體有する細胞	絕對數	百分核	絕對數	百分核	絕對數	百分核	絕對數	百分核	體有する細胞	寄生蟲							
日	27000	0.53	50%	31500	6700	4.6%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.4	—	—	—	—	—		
前日	27000	0.53	50%	29000	6100	4.1%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
一日	27000	0.53	50%	21000	4200	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
二日	27000	0.53	50%	19000	3800	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
三日	27000	0.53	50%	18000	3600	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
四日	27000	0.53	50%	17000	3400	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
五日	27000	0.53	50%	16000	3200	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
六日	27000	0.53	50%	15000	3000	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
七日	27000	0.53	50%	14000	2800	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
九日	27000	0.53	50%	13000	2600	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		
十四日	27000	0.53	50%	12000	2400	2.0%	0%	0	10	1.6%	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3	—	—	—	—	—		

見	所	淋	淋	體	寄	白血球		嗜中性	嗜酸性	其他	嗜	好	嗜	嗜	嗜	嗜	嗜	嗜	血液		淋	總	其	球	血液	赤血球	病						
						總	對												對	對													
1	尿	白	卵	卵	一	一	二・四%	〇・二%	〇・二%	〇・四%	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・八%	一	二・九〇〇	八・一〇〇	一	一	一	一	二	〇・七〇	三六萬	一	〇・七〇	二
1	尿	尿	尿	尿	一	一	〇	〇	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・二%	一	一〇・九〇〇	一七・五〇〇	一	一	一	一	一	〇・六〇	三五萬	一	〇・六〇	三
1	尿	尿	尿	尿	一	一	三・四%	〇・三%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四・〇%	一	二・四〇〇	五・九〇〇	一	一	一	一	一	〇・六〇	三〇萬	一	〇・六〇	四
1	尿	尿	尿	尿	一	一	五・四%	〇・二%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五・四%	一	二・二〇〇	五・九〇〇	一	一	一	一	一	〇・六〇	三五萬	一	〇・六〇	五
1	尿	尿	尿	尿	一	一	六・四%	〇・四%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六・四%	一	二・二〇〇	六・五〇〇	一	一	一	一	一	〇・七〇	三三萬	一	〇・七〇	六
1	尿	尿	尿	尿	一	一	四・八%	〇・四%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四・八%	一	二・七〇〇	六・五〇〇	一	一	一	一	一	〇・七〇	三〇萬	一	〇・七〇	七
1	尿	尿	尿	尿	一	一	四・八%	〇・一%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四・八%	一	二・七〇〇	六・五〇〇	一	一	一	一	一	〇・七〇	三〇萬	一	〇・七〇	九
1	尿	尿	尿	尿	一	一	一〇・六%	一・〇%	〇	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇・六%	一	二・六〇〇	六・五〇〇	一	一	一	一	一	〇・七〇	三五萬	一	〇・七〇	一〇

高橋 II 猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋一程紅熱、アンヶナ、及び發連菌精製毒液接種例に於ける血液像の關係に就て
 (24) 第四例 千 五年九月

病日	赤血球			白血球													
	總數	血色素係數	血色素量	總數	淋	巴	球	中	性	嗜	好	嗜	嗜	嗜	嗜	嗜	嗜
前日	四三萬	〇・八	五九%	六・一〇	二五〇	四〇	三・九	五・〇	四・二	四・〇	四・四	四・〇	六・〇	〇・八	〇・二	一・六	二・四
一日	五二萬	〇・七	五八%	七・六〇	二・八	三・四	三・九	四・〇	四・〇	四・四	四・七	四・〇	五・〇	〇・二	〇・二	一・八	二・四
三日	五九萬	〇・六	五七%	六・〇〇	二・七	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇	〇	一・六	二・四
四日	四〇萬	〇・六	五七%	五・三〇	二・六	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇	〇	一・六	二・四
五日	五四萬	〇・六	五七%	六・五〇	二・六	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇・二	〇・二	一・六	二・四
六日	五九萬	〇・六	五七%	六・〇〇	二・六	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇・八	〇・八	一・六	二・四
七日	四九萬	〇・六	五七%	五・〇〇	二・七	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	一・二	一・二	一・四	二・四
九日	四二萬	〇・五	五二%	四・〇〇	二・七	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇・四	〇・四	一・六	二・四
一四日	三七萬	〇・四	四八%	三・〇〇	二・八	三・〇	三・九	三・九	三・〇	三・四	三・七	三・四	三・〇	〇・四	〇・四	一・六	二・四

接種前體溫三六・四度、脈搏一〇四、呼吸數二二。毒素接種一〇時間後體溫三七・〇度、脈搏一二〇、呼吸數二二。自覺症狀、皮膚發赤、發疹、落屑、眼瞼結膜、咽頭粘膜炎の充血なし。舌乳頭肥大及び覆盆子舌を見ず。淋巴腺、脾臓、肝臓等腫脹せず。ティック反應は第八日のリテスト(一)。咽頭溶連菌は接種前後七回培養を行ふも毎回陰性。尿中ウロビリネ體は第二―第三日弱陽性に出現す。

血液像變化

赤血球數は第三―第六日極めて軽度の減少を示す。血色素量は赤血球に準じ、血色素係數不變。白血球數は著明の増加を見ず。中性嗜好細胞は第二日幾分増加するも幼若型の出現を見ず。テール氏封入小體は第四日二%に出現せるのみ。鹽基性嗜好細胞は第五日迄幾分減少を見、第六―第七日〇・八一・二%に増加す。エオジン嗜好細胞は第二―第三日幾分減少せるも、第五―第六日増加して六・六%を示す。淋巴球は軽度の初期減少を見るも、第七日には恢復期増加を示す。大單核細胞及び移行型は不變。プラズマ細胞及びチュルク氏刺戟型は毎回僅少に出現す。(第三章終り)

高橋 II 猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て